

Ⅲ その他

【自由意見】

今回の調査では、有効回答数 5,130 人のうち、1,879 人の方から自由意見が寄せられました。

➤ みえ県民 1 万人アンケートに関する御意見

今後もできる限り多くの方に回答いただけるよう、御意見を踏まえ、調査方法の改善などに努めてまいります。なお、以下に具体的な御意見の例を記載します。

① 目的や活用に関すること

- ・ アンケートが役立つことを願います
- ・ 調査してどれくらい改善されるか気になる
- ・ 県政に反映できる（参加している）と感じるこのようなアンケートは必要と思います
- ・ このアンケート結果がどう反映されるのかがわからない。
- ・ 集計結果と結果をどう活かすのか、具体的な施策を公表お願いします
- ・ アンケート調査の目的が不明。デジタル化は年寄りにも理解しやすい方法で

② 調査票の内容や構成に関すること

- ・ 高齢者夫婦ですのでアンケートには少し該当しない様な所もありました
- ・ 選択肢の多い設問に 3 つまでの回答というのは難しい。「いくつでも」が良かった
- ・ 難しくて分からない
- ・ 大まかすぎて判断に迷う質問がある
- ・ 質問の意図が分かりづらく、近いものがなくて答えづらかったです。どんな場面でどんな人が質問するのかで答えも違うので選べずにわからないにしました
- ・ 回答を得られやすくするためにはある程度仕方がないのだろうが、一概にそうすべきかやめておくべきかの二元論で回答するのはいかがなものかと思われるような設問が散見された

③ その他（実施方法、公表など）に関すること

- ・ このアンケートは全世代を対象にしたもので大雑把なように思えます。ある程度世代を限定して、それぞれに対する質問を用意してアンケートした方がアンケートの効果があると思います
- ・ このアンケートの結果を教えてほしい
- ・ 将来の為のアンケートです。ギフト券などいりません。税金をギフト券などに使わないでほしい

※自由意見の内容は誤字脱字を修正しているため、原文とは一部異なります。

（参考）標本誤差と調査の精度

母集団の一部を標本として抽出し、その回答からもとの母集団全体について推定する標本調査では、“真の値”（全数調査を行えば把握できるであろう値）との差が発生することが避けられません。この“標本誤差”は、次のような手順で見積もることができます。

まず、今回のように大きな母集団から標本を無作為抽出する調査では、ある選択肢が選ばれた比率（回答比率） p の“標準誤差”（回答比率の標準偏差）が次のように求められます。

$$\text{標準誤差} = \sqrt{\frac{p(100-p)}{n}} \quad n : \text{回答者数（人）} \quad p : \text{回答比率（\%）}$$

標本誤差はこの標準誤差と、結果に求める“信頼度”から見積もります。例えば、信頼度を、最も広く使われる95%（間違える確率が5%）とすると、標本誤差は次の式のように求めることになります。

$$\text{標本誤差} = 2 \times \text{標準誤差}$$

ここで、右辺第1項の2（厳密には1.96）は、想定する信頼度によって統計学的に決まる値です。回答比率プラスマイナス標本誤差の範囲が信頼区間と呼ばれるもので、信頼度95%の場合、真の値（母集団における比率）が95%の確率で、次の範囲におさまると考えることができます。これが、標本調査の精度です。

$$\text{回答比率} - \text{標本誤差} \sim \text{回答比率} + \text{標本誤差}$$

今回の調査では、10,000人の標本から5,130人の有効回答が得られました。回答者全員を対象とする集計結果の標本誤差を、上の式から具体的に計算すると、例えば回答比率が50%の場合は、1.4%、同20%では1.1%となります。このことから、三重県民（18歳以上）全体の意識を推定するために十分な精度を得ていると考えられます。

次表は、いくつかの n （回答者数）と p （回答比率）の組み合わせについて、信頼度95%の標本誤差を計算した早見表です。

標本誤差の早見表

回答比率(p) \ 回答者数(n)	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
	(95%)	(90%)	(85%)	(80%)	(75%)	(70%)	(65%)	(60%)	(55%)	
10,000	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0
5,000	0.6	0.8	1.0	1.1	1.2	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
1,000	1.4	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2
500	1.9	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5
100	4.4	6.0	7.1	8.0	8.7	9.2	9.5	9.8	9.9	10.0

なお、標本誤差の計算は、特定の属性区分（例えば性別が女性など）の回答者 n 人とその回答比率 p という組み合わせについても同様です。上の表は、そのような標本誤差の早見表としてもご覧ください。